

北海道・三陸沖後発地震注意情報の 住民対応に関する第2回協働調査結果

令和8年7月8日

宮城県 復興・危機管理部
東北大学災害科学国際研究所

北海道・三陸沖後発地震注意情報の住民対応に関する協働調査(第2回)

○調査目的

令和8年4月20日に発生した三陸沖を震源とする地震では、令和7年12月9日に次いで、2度目の「北海道・三陸沖後発地震注意情報」が発表され、住民に広く防災対策の注意が呼びかけられました。そのため、注意情報の認知度や防災行動への影響・課題、前回からの防災意識の変化を客観的に分析するとともに、今後の防災施策につなげるため、県と国立大学法人東北大学との包括連携協定に基づく協働調査として、2回目(※)のアンケート調査を実施しました。

○期 間:令和8年5月1日(金)～5月17日(日)

○対 象:県内住民のうち、ポケットサインを導入し、アンケートアプリに同意している方

○調査方法:アンケートアプリ(デジタル身分証アプリ「ポケットサイン」内のミニアプリ)

○回答件数:11,350件

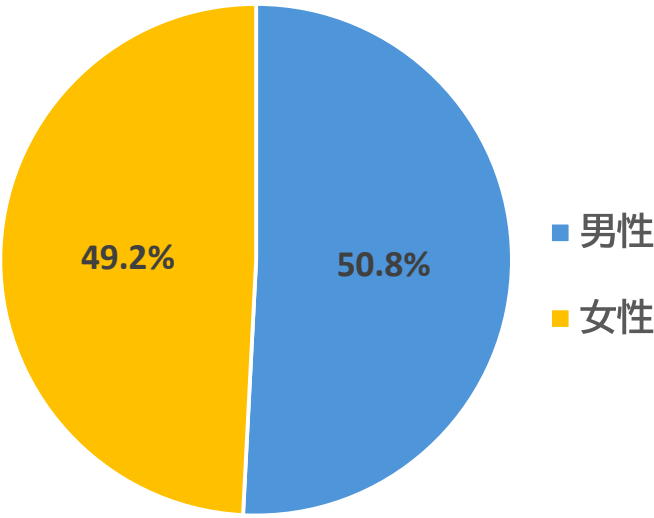
○主な調査項目(全問18問(31項目)／第1回調査から1問削除、2問追加)

- ・ 注意情報の認知・受け止め
- ・ 具体的な防災行動
- ・ 社会活動への影響・混乱
- ・ 現在の状況

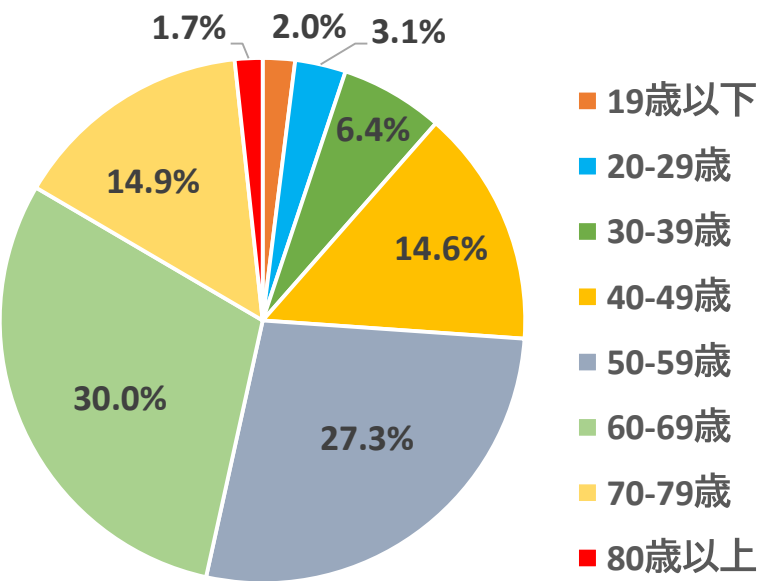
※ 第1回調査は、令和7年12月の地震を対象に、令和8年1月に実施(回答件数:8,892件,男性:49.1%,女性:50.9%)。

回答者の基本情報

<回答者の男女内訳>



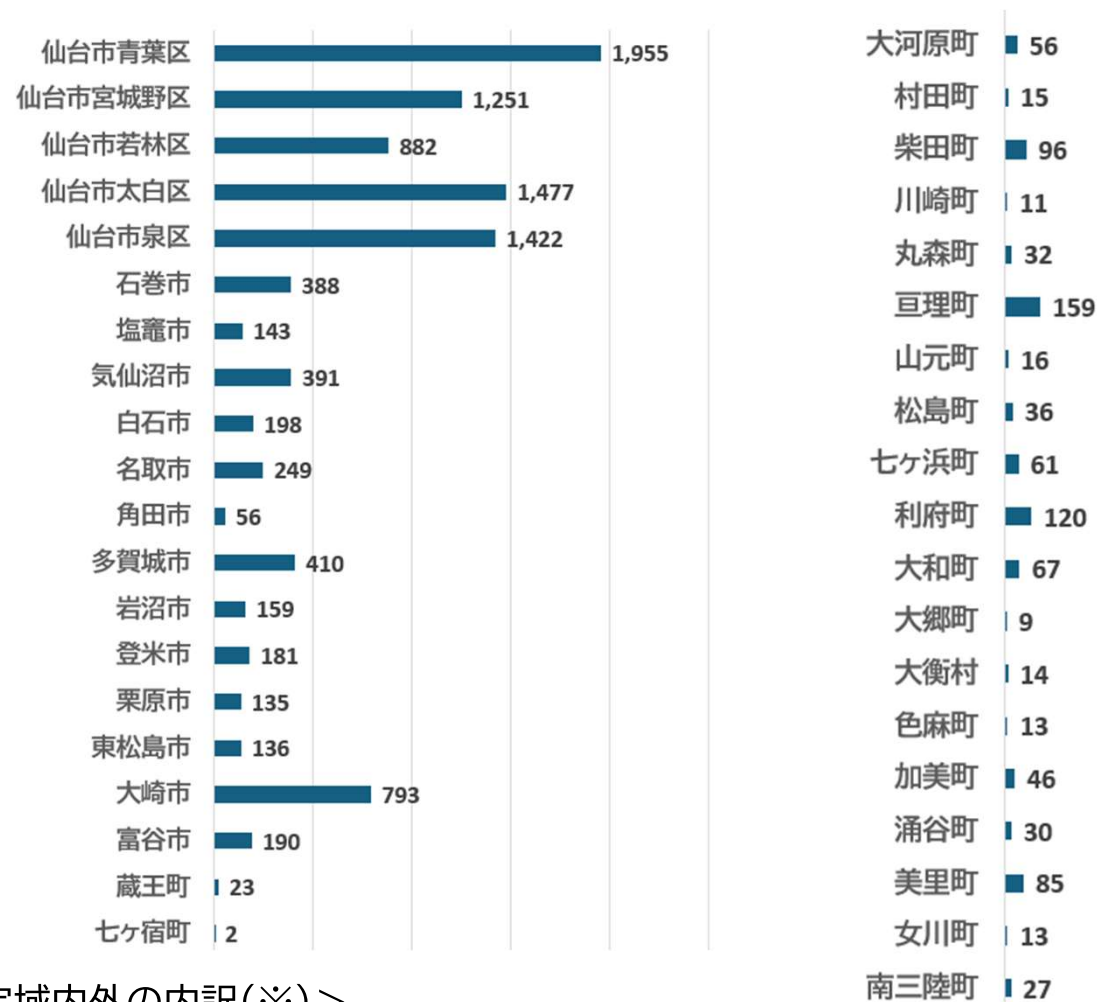
<回答者の年齢内訳>



回答者の基本情報

<回答者の居住地内訳>

(単位:件)



<浸水想定域内外の内訳(※)>



結果の概要

1. 注意情報の認知・受け止め：第1回調査と比較して注意情報の名前や内容が広く認知(問1～4)。

- ・ 令和8年4月20日の注意情報の発表前から、「名前も内容も知っていた」と回答した割合が54.7%と、第1回調査の26.8%から27.9ポイント上昇し、前回の注意情報発表時以降、認知度が向上し、広く周知されていた。(p5)
- ・ 第1回調査時と同様、テレビから内容を把握した人が最も多く、注意情報発表期間中の情報収集手段として広く活用された。(p6)

2. 具体的な防災行動：地震前に備え・準備をしていると回答した割合が少し上昇(問5～9)。

- ・ 注意情報で呼びかける「日頃からの備え」については、すべての設問で「地震前に準備済み」の回答が第1回調査を上回り、前回の注意情報発表時以降の普及啓発の効果が見られた。その一方で、回答傾向に大きな変化はなく、いずれの選択肢でも「地震前も今も、していない」の回答が一定数存在するため、改めて、日頃からの備えの必要性を周知していく必要がある。(pp8-11)
- ・ すぐに避難できる態勢での就寝等の、「特別な備え」の実施割合は、第1回調査時と比較して若干改善が見られた。一方、いずれの設問でも備えを実施していない割合が約半数に上っており、普及啓発を図る余地がある。(p12)また、津波浸水想定域内の居住者のうち、すぐに避難できる態勢での就寝を実施していない人は36.6%と一定数存在しており、課題が残る。(p28)
- ・ 職場や学校、施設等の組織的対応については49.6%が「特になし」と回答しており、第1回調査から大きな変化はなく、事業者等における防災対応の取組を促す余地がある。(p15)

3. 社会活動への影響・混乱：大きな混乱はなく、偽情報・誤情報にも冷静に対応(問10～12)。

- ・ 旅行やイベント、外出などについて、中止・延期したと回答した人は9.0%、買い占めを実際に見かけ、影響があったと回答した人は5.7%にとどまり、第1回調査時と同様、大きな社会的混乱はなかった。(p16)
- ・ SNS等で「人工地震」等の偽情報・誤情報を「見かけなかった」と回答した人が71.4%となり、第1回調査と比較して、偽情報・誤情報を見かけたとする割合が低下した。(p16)

4. 現在の状況：注意情報は防災意識の向上に効果。今後とも避難生活の不安解消に向けた取組が重要(問13～17)。

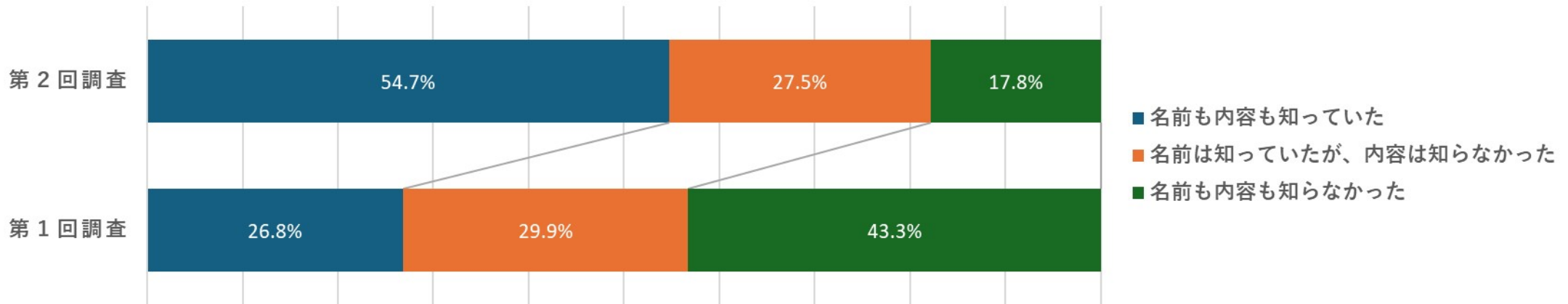
- ・ 前回の注意情報発表以降、日頃からの備えを概ねまたは一部継続していたと回答した割合が約3分の2に上った。また、「前回以上の備えの意識が高まった」、「同じような備えの必要性を感じた」の回答が7割を超え、普及啓発の効果が見られたものの、「前回よりも備えの必要性を感じなかった」の回答も16.1%となり、注意情報への「慣れ」につながらないように、効果的な啓発方法を検討する余地がある。(p17)2011年3月9日地震(前震)と日本海溝・千島海溝沿いの巨大地震の認知度は第1回調査時より向上した。(p18)
- ・ 避難生活の不安については、第1回調査と大きな変化はなく、「水や食料が不足する」、「トイレ・衛生環境が確保できない」、「寒さ・暑さ対策(温度調整)が難しい」などの不安が比較的多いことから、災害時の適切な避難行動を促すため、物資・備蓄状況の周知や、避難環境の改善の取組が重要になる。(p19)

1. 注意情報の認知・受け止め

問1 今回の発表前、あなたは注意情報について知っていましたか。

○ 注意情報の発表前、全体の54.7%が名称と内容を認知しており、第1回調査の26.8%から大きく上昇した。

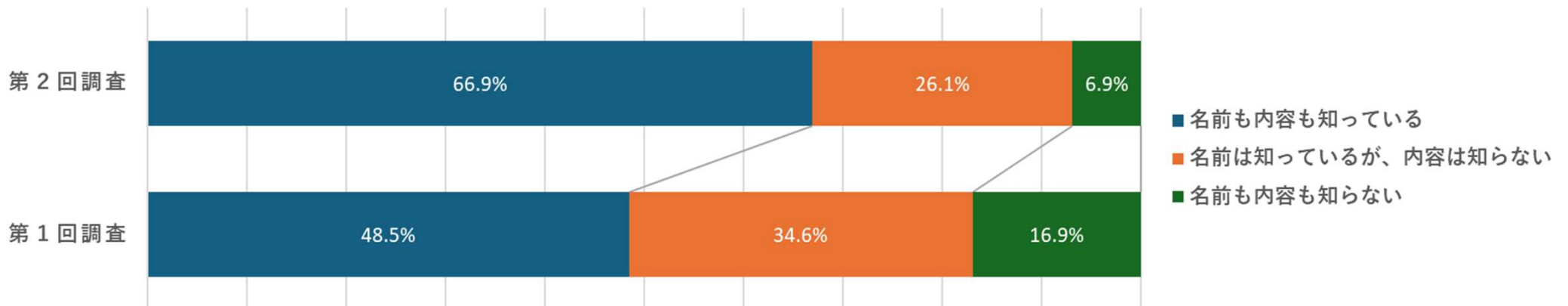
(単一回答)



問2 いま、あなたは注意情報についてどの程度知っていますか。

○ 注意情報の発表後、全体の93.1%が名前を認知しており、内容まで知っている人は66.9%に上昇した。

(単一回答)

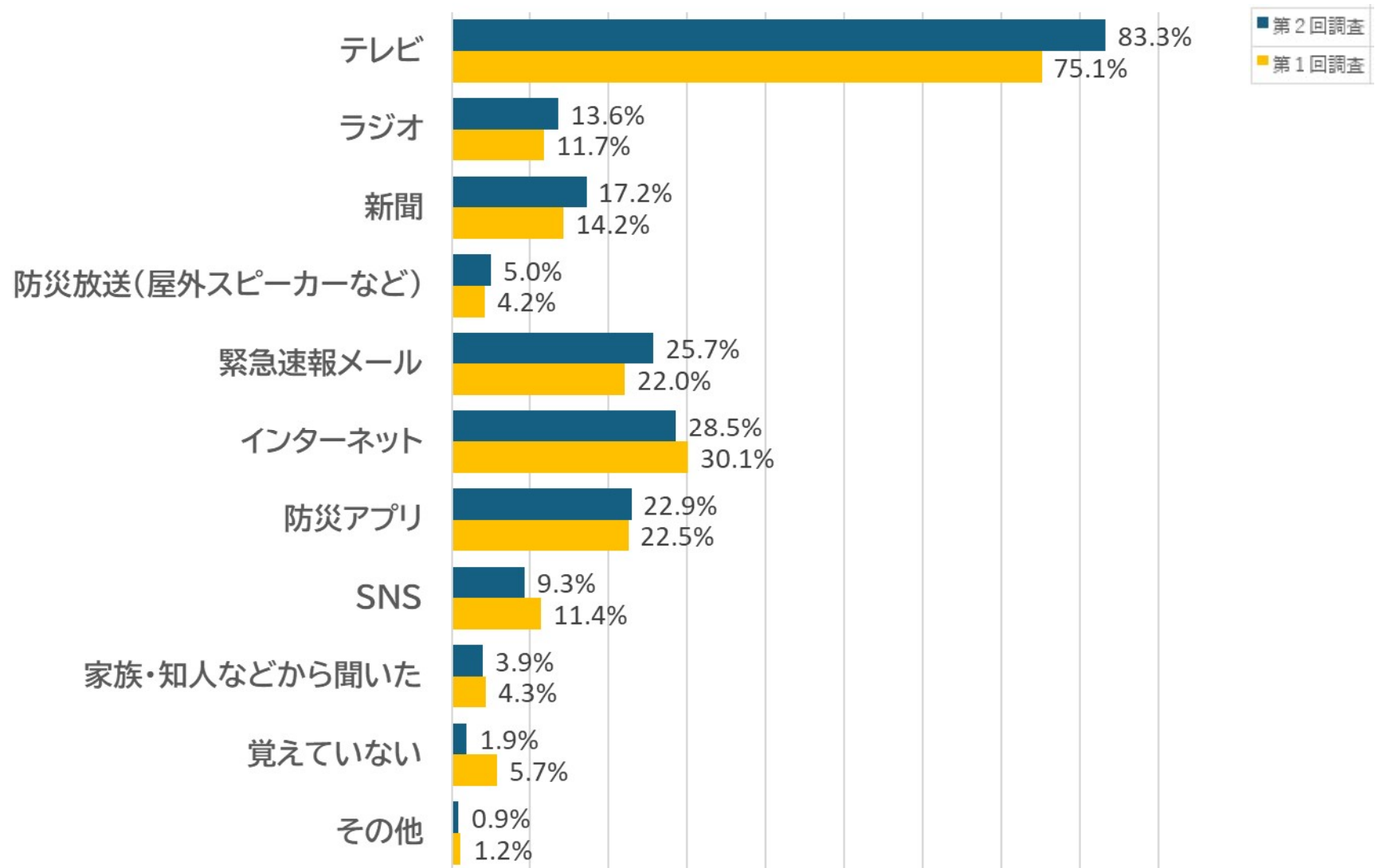


1. 注意情報の認知・受け止め

問3 注意情報の発表やその内容について、あなたはどのように知りましたか。(複数回答可)

○ 第1回調査と同様、テレビが83.3%とも多く、次いでインターネットが28.5%、緊急速報メールが25.7%、防災アプリは22.9%となっている。

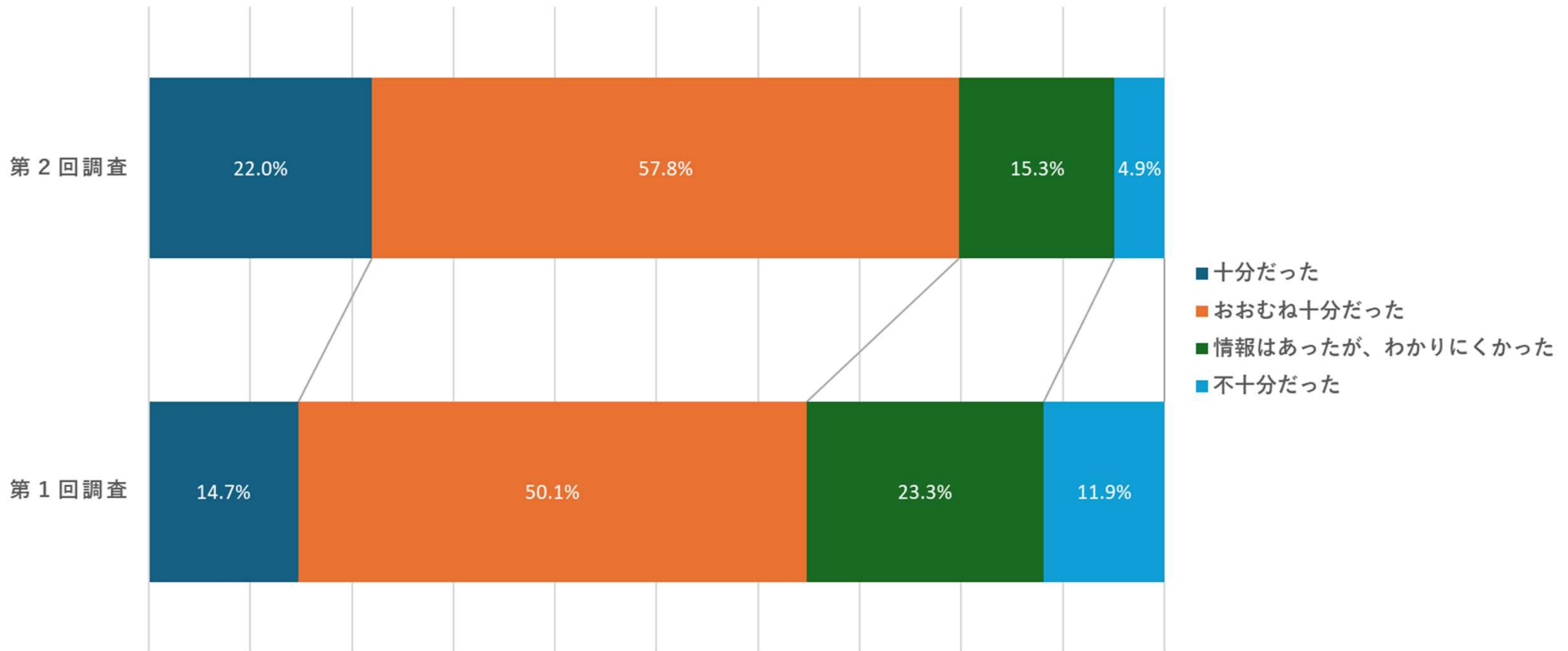
(複数回答)



1. 注意情報の認知・受け止め

問4 今回の注意情報について、公的機関(国・県・市町村等)からの情報発信は十分だと感じましたか。
○「十分だった」「おおむね十分だった」が全体の79.8%となり、第1回調査より15.0ポイント上昇した。

(単一回答)



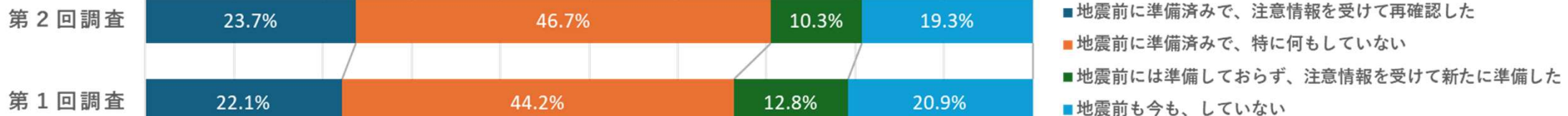
2. 具体的な防災行動

問5 注意情報では、地震・津波への「日頃からの備え」の再確認として、家具の固定、安全な避難場所・避難経路、水や食料等の備蓄、家族との連絡手段などの再確認を呼びかけています。あなたは、注意情報の発表を受けて、どのような「日頃からの備え」を確認・準備しましたか。

○ 全ての設問で「地震前に準備済み」の回答が第1回調査のポイントを上回った。一方、回答の傾向は第1回調査から大きな変化はなく、窓ガラスの飛散防止や簡易トイレの準備、感震ブレーカーの設置等の備えは、今後の普及啓発の余地がある。

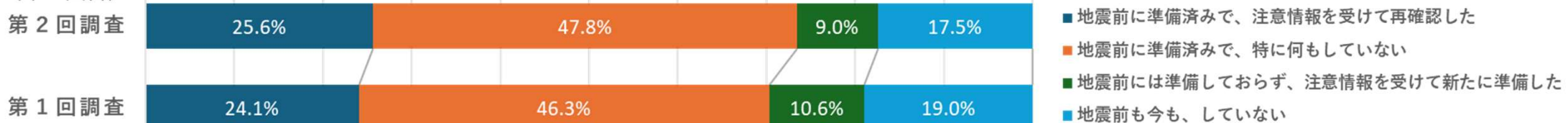
問5-1 ハザードマップで危険な場所を確認する。

(単一回答)



問5-2 安全な避難場所・避難経路等を確認する。

(単一回答)



問5-3 家族や知人等との連絡手段を決めておく。

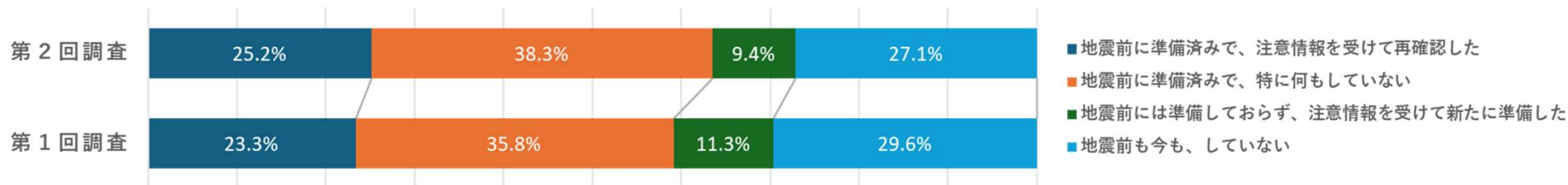
(単一回答)



2. 具体的な防災行動

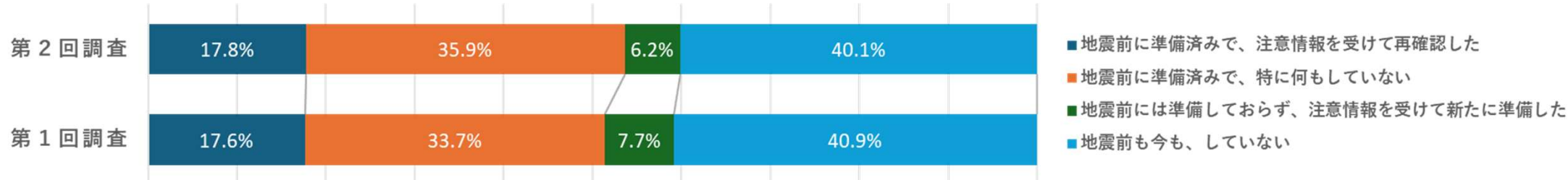
問5-4 非常持出品を準備しておく。

(単一回答)



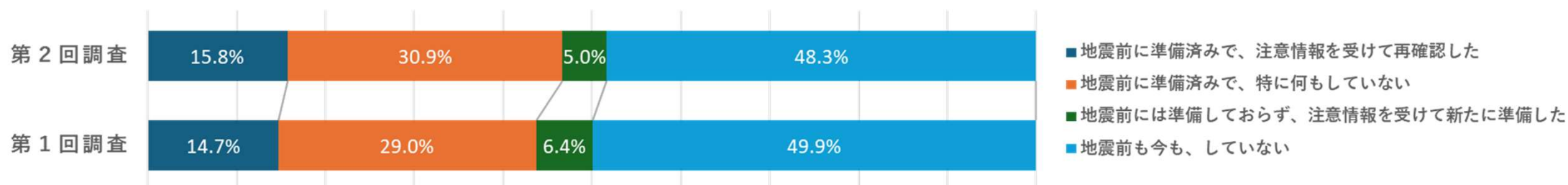
問5-5 火災報知器の電池切れがないことを確認する。

(単一回答)



問5-6 漏電遮断器や感震ブレーカー等を設置する。

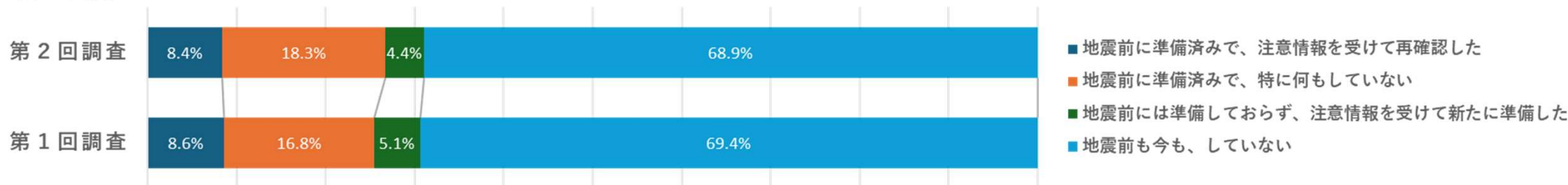
(単一回答)



2. 具体的な防災行動

問5-7 窓ガラスの飛散防止対策をする。

(単一回答)



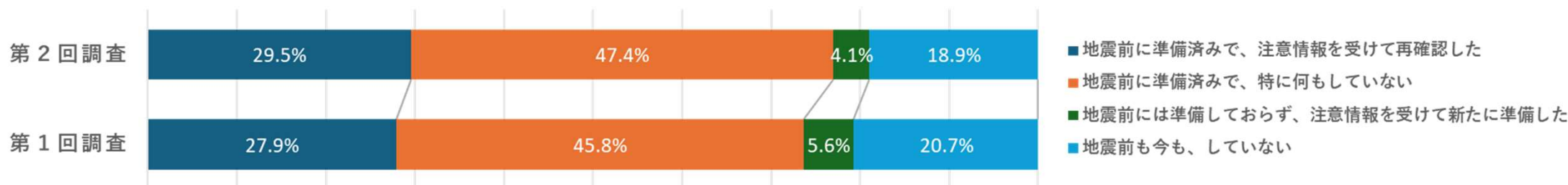
問5-8 タンス類・本棚の転倒防止対策をする。

(単一回答)



問5-9 ベッドや布団の頭上に物を置かない。

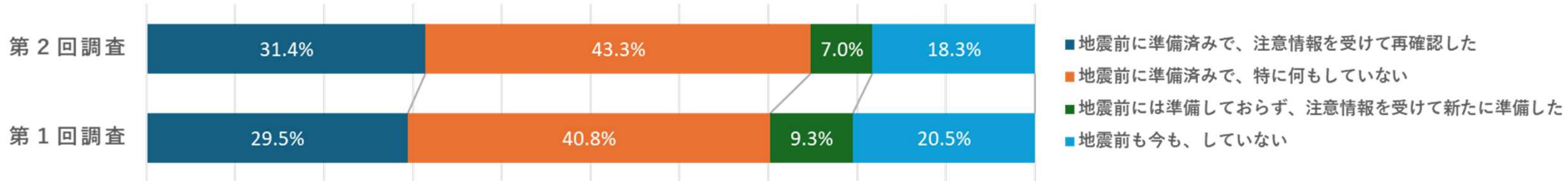
(単一回答)



2. 具体的な防災行動

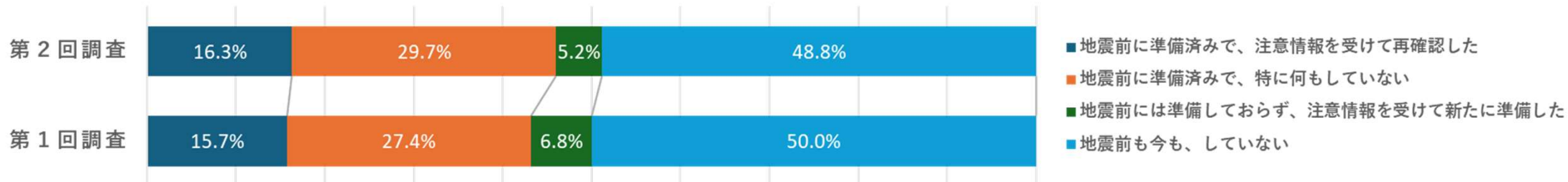
問5-10 水や食料などの備蓄を準備・追加する。

(単一回答)



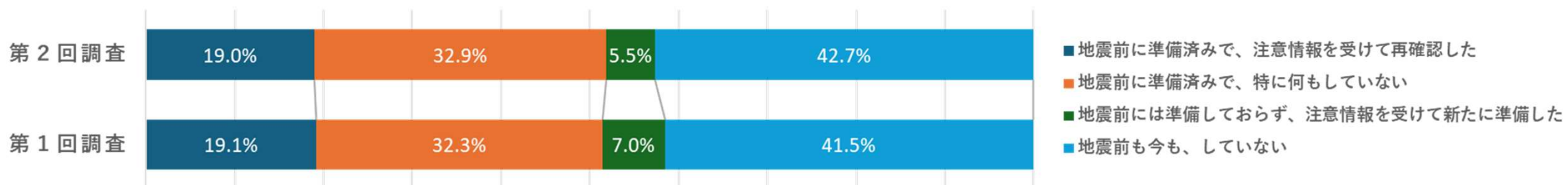
問5-11 簡易トイレを用意する。

(単一回答)



問5-12 予備バッテリー等を準備する。

(単一回答)



2. 具体的な防災行動

問6 注意情報では、「特別な備え」として、すぐに避難できる態勢の維持・非常持出品の常時携帯を、おおむね1週間程度継続するよう呼びかけています。あなたは、注意情報の発表期間中、「特別な備え」をどの程度行いましたか。

○ いずれも、およそ半数は備えを実施しており、第1回調査よりも改善傾向にあるものの、引き続き、普及啓発の余地がある。

問6-1 すぐに避難できる態勢での就寝。

(単一回答)



問6-2 外出先での、すぐに避難できる態勢の維持。

(単一回答)



問6-3 非常持出品の常時携帯。

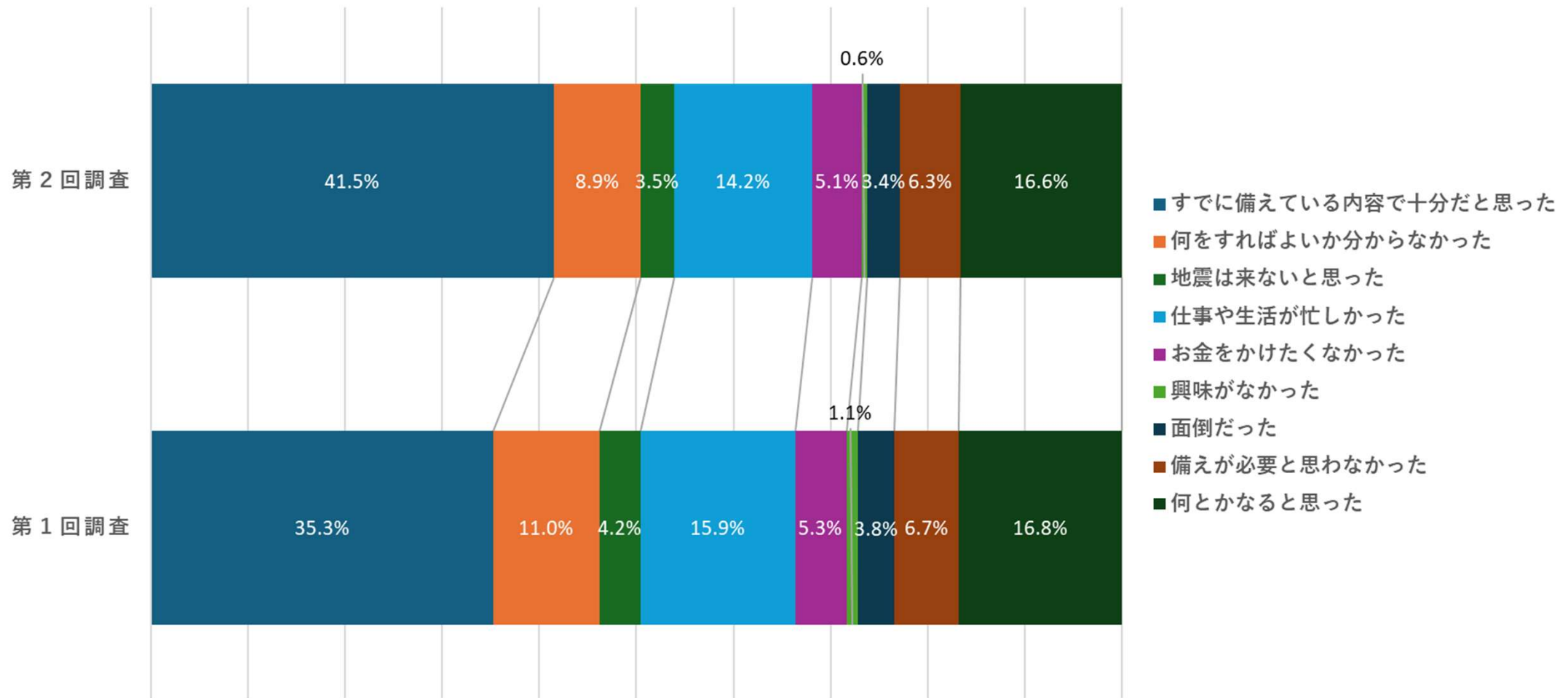
(単一回答)



2. 具体的な防災行動

問7（問5・問6で「地震前も今も、していない」「していなかった」と一つでも回答された方にお聞きします。）あなたが防災行動を行わなかった理由を教えてください。（最もあてはまるものを一つ選択）
○「すでに備えている内容で十分だと思った」が41.5%と最も多く、次いで「何とかなると思った」が16.6%、「仕事や生活が忙しかった」が14.2%などとなっている。

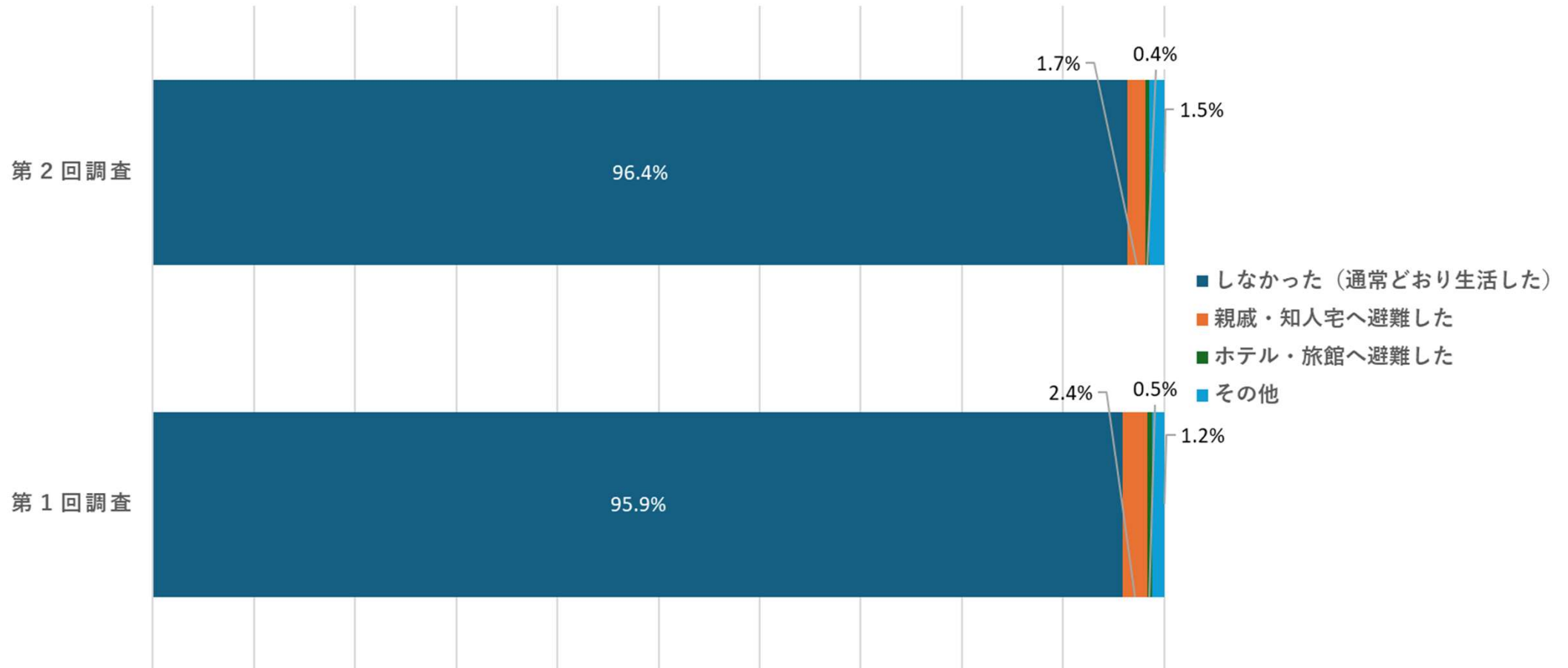
（単一回答）



2. 具体的な防災行動

問8 注意情報は「事前避難」を求めるものではありませんが、注意情報の発表を受けて、あなたは自主避難を行いましたか。
○ 注意情報の趣旨のとおり、全体の96.4%の人が通常どおりの生活を送ったとの回答があり、第1回調査と同様、社会経済活動の維持が図られた。

(単一回答)

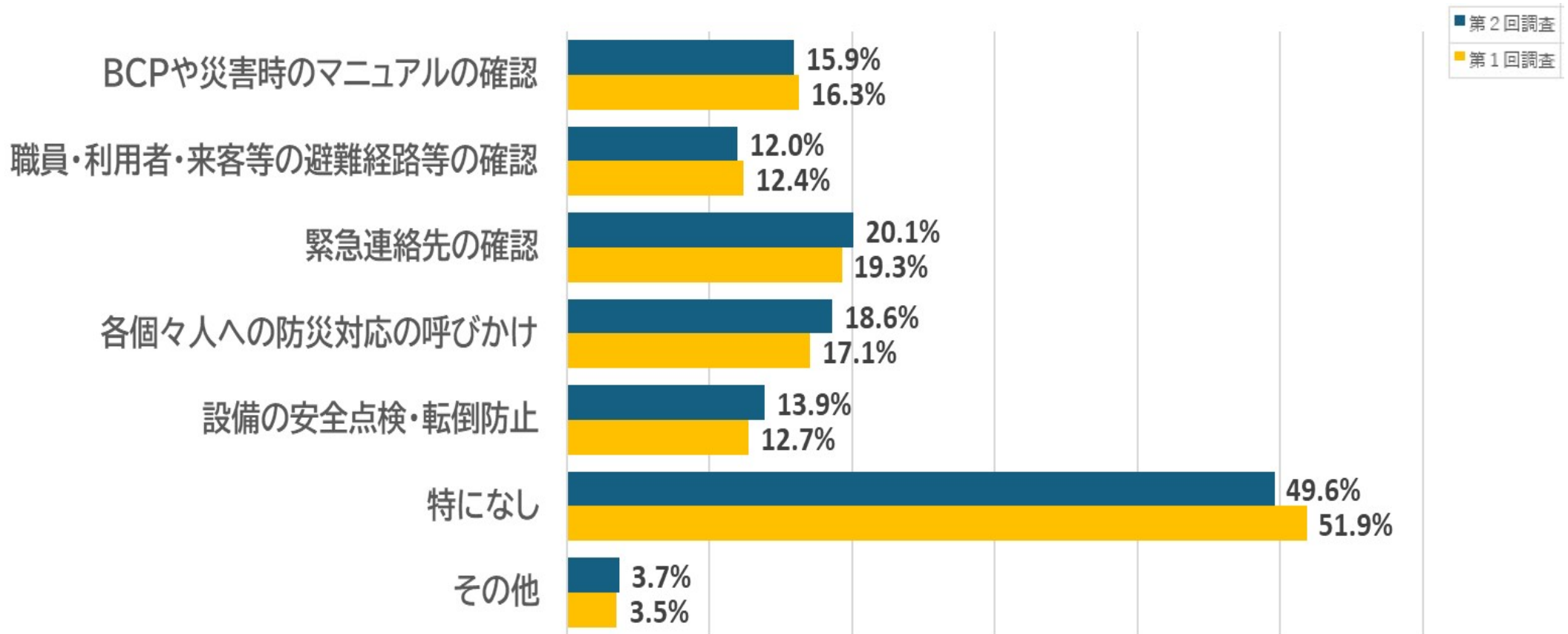


2. 具体的な防災行動

問9 注意情報の発表を受けて、あなたの職場や学校、施設等ではどのような防災対応が行われましたか。(複数回答可)

○ 第1回調査から大きな変化はなく、「特になし」の回答がおおよそ半数を占めるなど、引き続き、普及啓発の余地がある。

(複数回答)

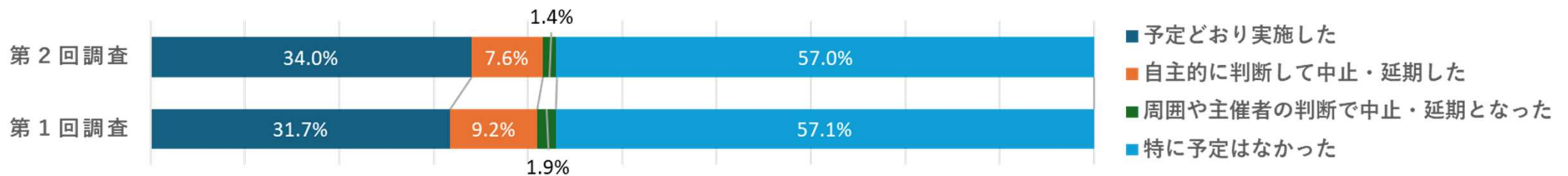


3. 社会活動への影響・混乱

問10 注意情報では「普段どおり生活しながら注意すること」を呼びかけていますが、予定していた旅行やイベント、外出などはどうされましたか。

○「中止・延期」したとの回答が第1回調査と比較して微減した。

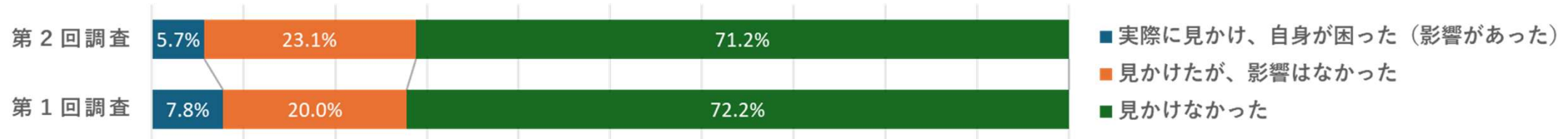
(単一回答)



問11 注意情報の発表期間中、水、食料、生活用品、ガソリンなどの買い占めや品薄の状況を、ご自身の目で見ることがありましたか。

○「実際に見かけ、自身が困った(影響があった)」人は5.7%にとどまった。

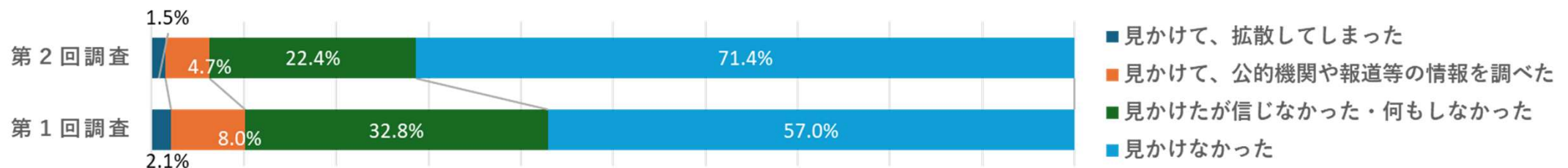
(単一回答)



問12 注意情報の発表期間中、SNS等で「人工地震」や「〇日に地震が来る」といった偽情報・誤情報を見かけましたか。

○「見かけなかった」が71.4%となり、第1回調査と比較して、偽情報・誤情報を見かけたとする回答割合が低下した。

(単一回答)

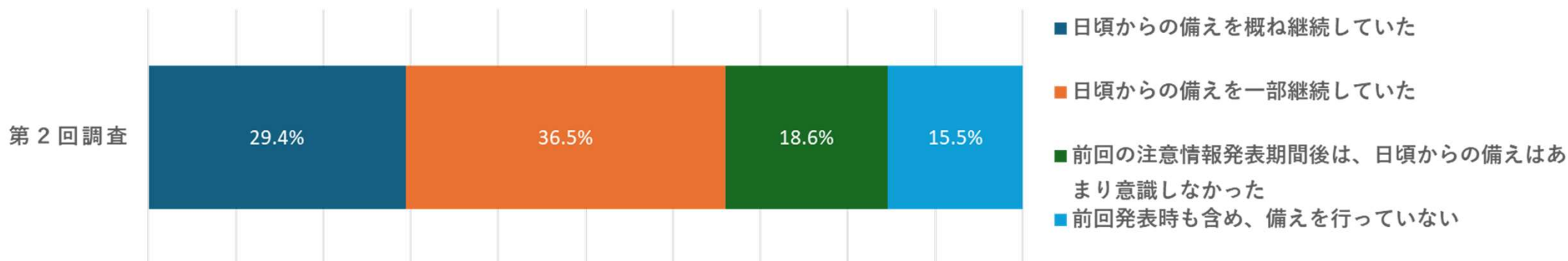


4. 現在の状況

問13 前回の注意情報発表時から今回の注意情報発表時までに防災への意識はどのように変化しましたか。

○「日頃からの備えを概ね継続していた」「日頃からの備えを一部継続していた」の回答が約3分の2に上ったものの、前回の注意情報発表後も備えをあまり意識していない人が一定数おり、今後の普及啓発の余地がある。

(単一回答)



問14 前回の注意情報発表時と比較して、今回の注意情報はどのように感じましたか。

○「前回以上に備えの意識が高まった」「同じような備えの必要性を感じた」の回答が7割を超えた一方で、16.1%が前回よりも備えの必要性を感じなかったとしている。

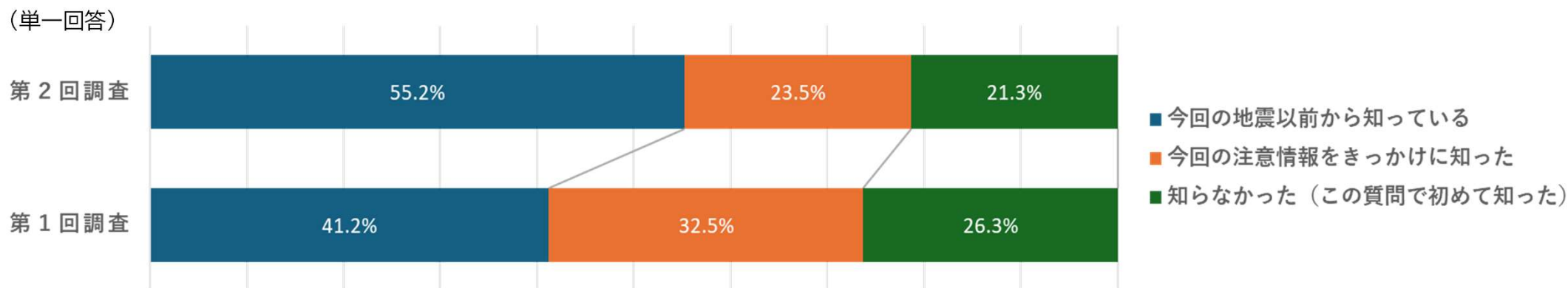
(単一回答)



4. 現在の状況

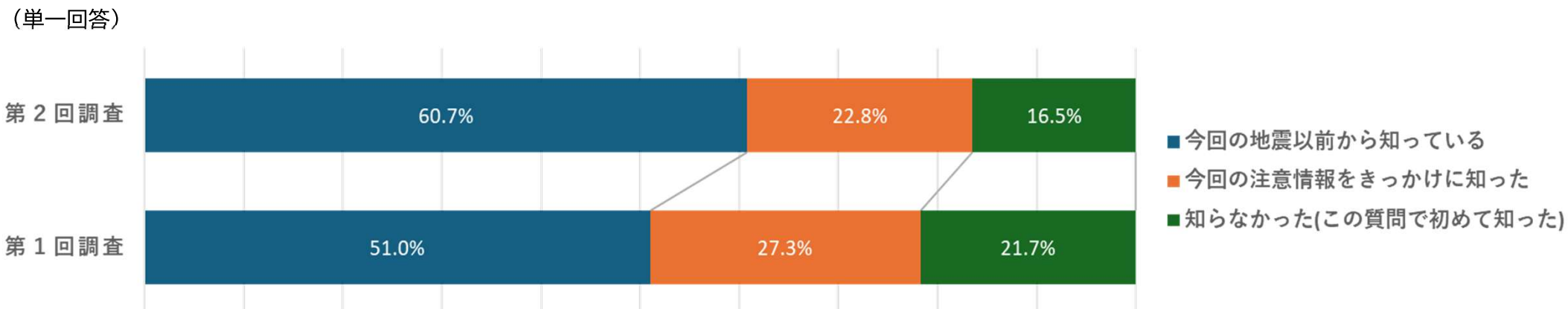
問15 東日本大震災の2日前(2011年3月9日)にはM7.3の大きな地震があり、注意情報はこの事例も踏まえて運用が開始されました。あなたはこのことを知っていましたか。

○「今回の注意情報以前から知っている」が55.2%と、第1回調査から14ポイント上昇し、令和7年12月の注意情報発表以降の普及啓発の効果が見られる。



問16 日本海溝・千島海溝の周辺で、大規模な地震・津波の発生する可能性があることを知っていましたか。

○「今回の注意情報以前から知っている」が60.7%と、第1回調査から9.7ポイント上昇し、問14と同様、普及啓発の効果が見られる。

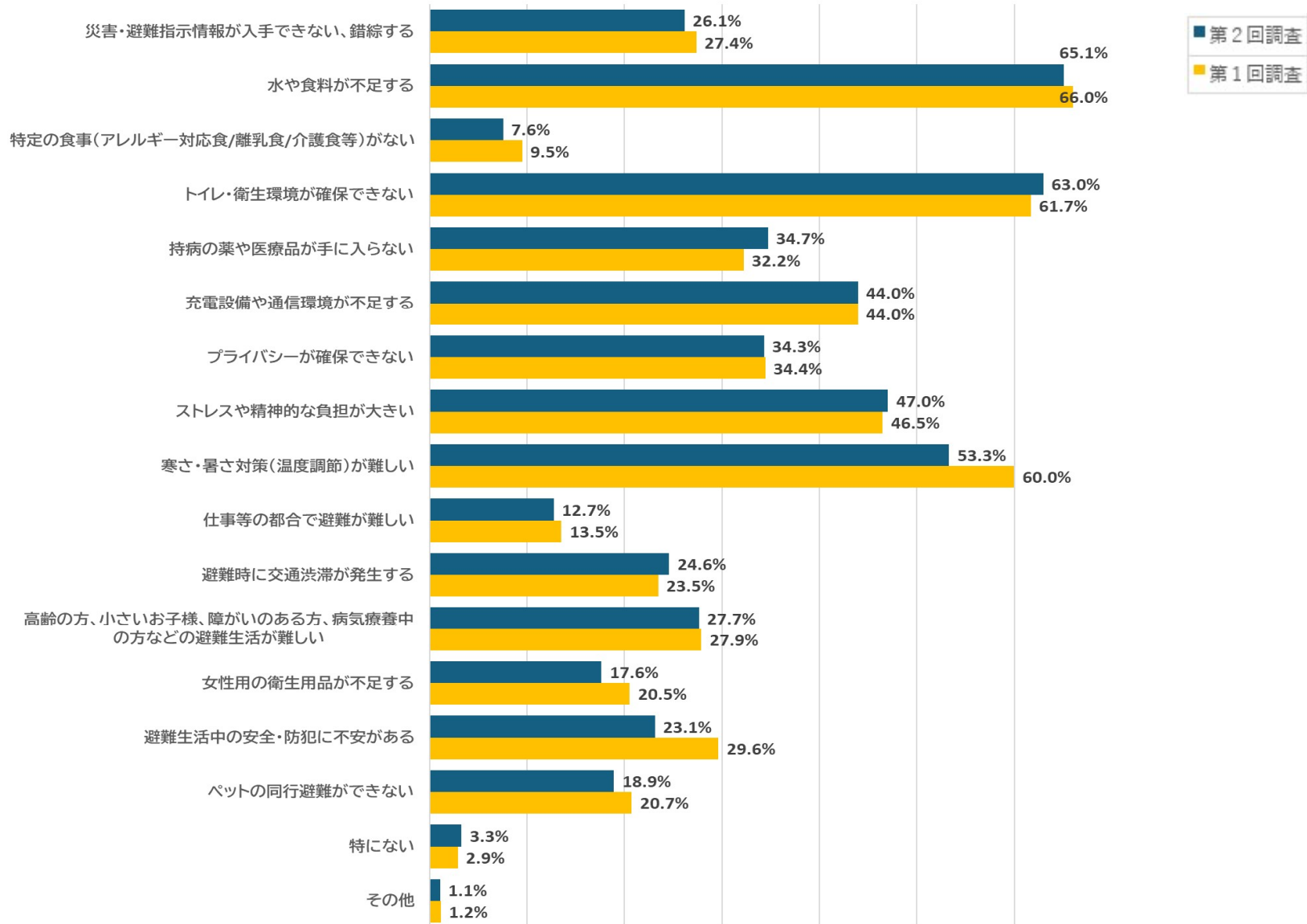


4. 現在の状況

問17 大規模な地震・津波が発生した場合、あなたが避難時や避難生活で不安に思うことを教えてください。(複数選択可)

○ 第1回調査から全体としての傾向に大きな変化はなく、「水や食料が不足する」、「トイレ・衛生環境が確保できない」、「寒さ・暑さ対策(温度調節)が難しい」など、避難生活に関わる不安が多かった。

(複数回答)



4. 現在の状況

問18 今回の注意情報や防災に関して、ご意見・ご要望、お気づきのことなどがあれば自由にご記入ください。

<主なご意見の概要>

【1. 防災意識と備えの再確認】

○日常的な備えと意識の向上

- ・大震災を忘れずに、防災グッズなど定期的な点検が必要だと感じました。
- ・自分でしっかり慌てないように、準備が必要だとわが事として受け入れる必要があると感じた。
- ・地震が起きた時は、備えや避難についての確認等が必要だと思っても、落ち着くと、あとからでいいかなとなり、備えや避難の確認等につながらないでしまう。

○具体的な備蓄・点検・見直し行動

- ・しばらくリュックに入れっぱなしだった避難用品をチェックして入れ替えたり、懐中電灯の電池を入れ替えたりした。
- ・家族間で何処に避難するか決めておくことも大事。隣近所の声がけが大事だと思う。
- ・避難用の食料の期日が迫っていたので新たに買い替える必要性がある。

【2. 情報発信の必要性和受け止め】

○積極的な情報発信の必要性

- ・たとえ空振りとなっても注意喚起は繰り返し行うべき。
- ・今回2度目の情報でしたが、細部までは覚えていないため、繰り返し情報を流すことの大切さを感じました。
- ・定期的なアンケートを行い、認識を上げていくようにしてもらいたい。

○2回目の注意情報発表の受け止め方

- ・前回の発表時よりも冷静に普段の生活ができた。決して慣れとかではなく、備えがあればの冷静さだったような気がする。
- ・万が一の備えを見直す良い機会になっている。なので、注意情報を良いサイクルに繋げられるものにできたら良いと思う。
- ・注意情報が発令された場合の具体的な対応をどのようにすればよいのか、まだ理解が不十分です。
- ・今後も注意情報が出されることもあると思うが、「また出たの？」と対応がおろそかになる人が出てくる可能性があり、今後の注意情報の出し方に工夫が必要になると思う。

【3. 避難における難しさや不安】

○避難行動の難しさ

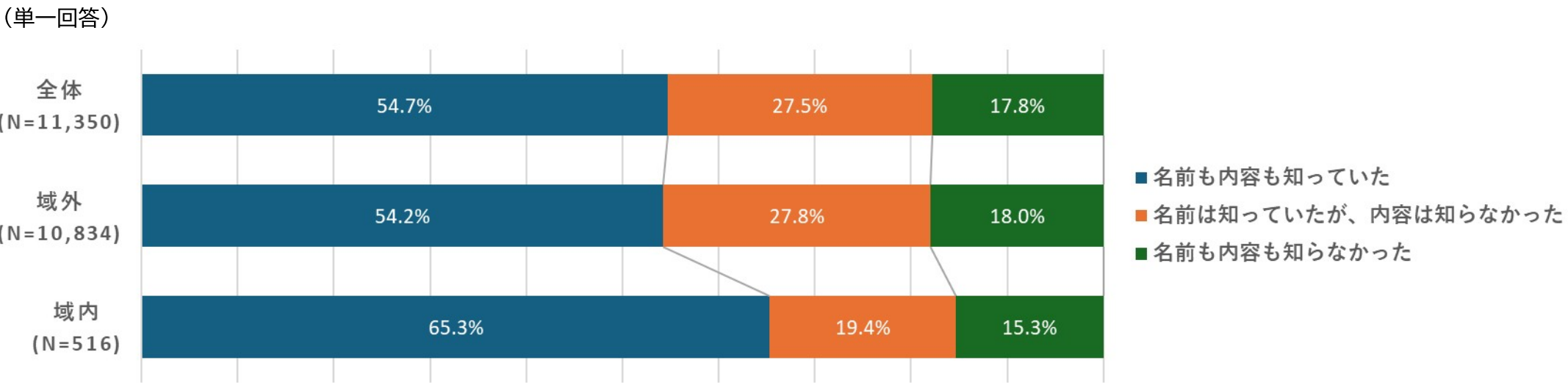
- ・身体に障害があるので、自分の事と高齢の親のフォローが瞬時に出来るか、不安である。
- ・高齢者一人世帯にとって果たして避難所までたどり着けるのか不安です。
- ・車での避難が多く道路が渋滞しているのをニュースで観て不安になった。

○避難生活への不安

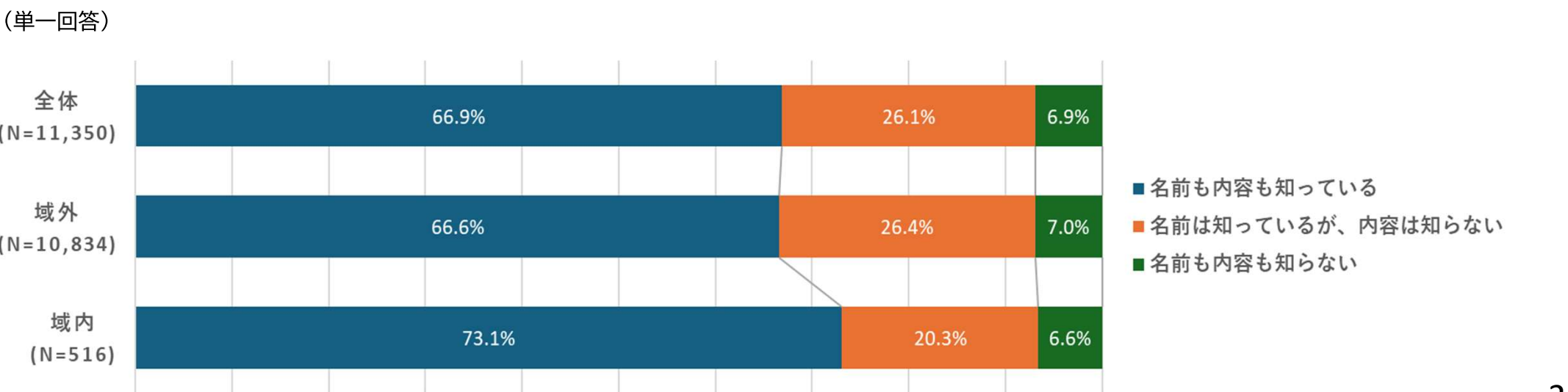
- ・子供が食物アレルギーがあるので、避難しなければいけなくなった時に心配です。日頃から準備が必要だと思った。
- ・高齢者家族の避難生活は大変です。歩くのもままならないのに避難出来るか心配です。
- ・ペットがいるので、避難所に避難する事を躊躇ってしまう。

資料編（第2回調査：津波浸水想定域内外の比較）

問1 今回の発表前、あなたは注意情報について知っていましたか。



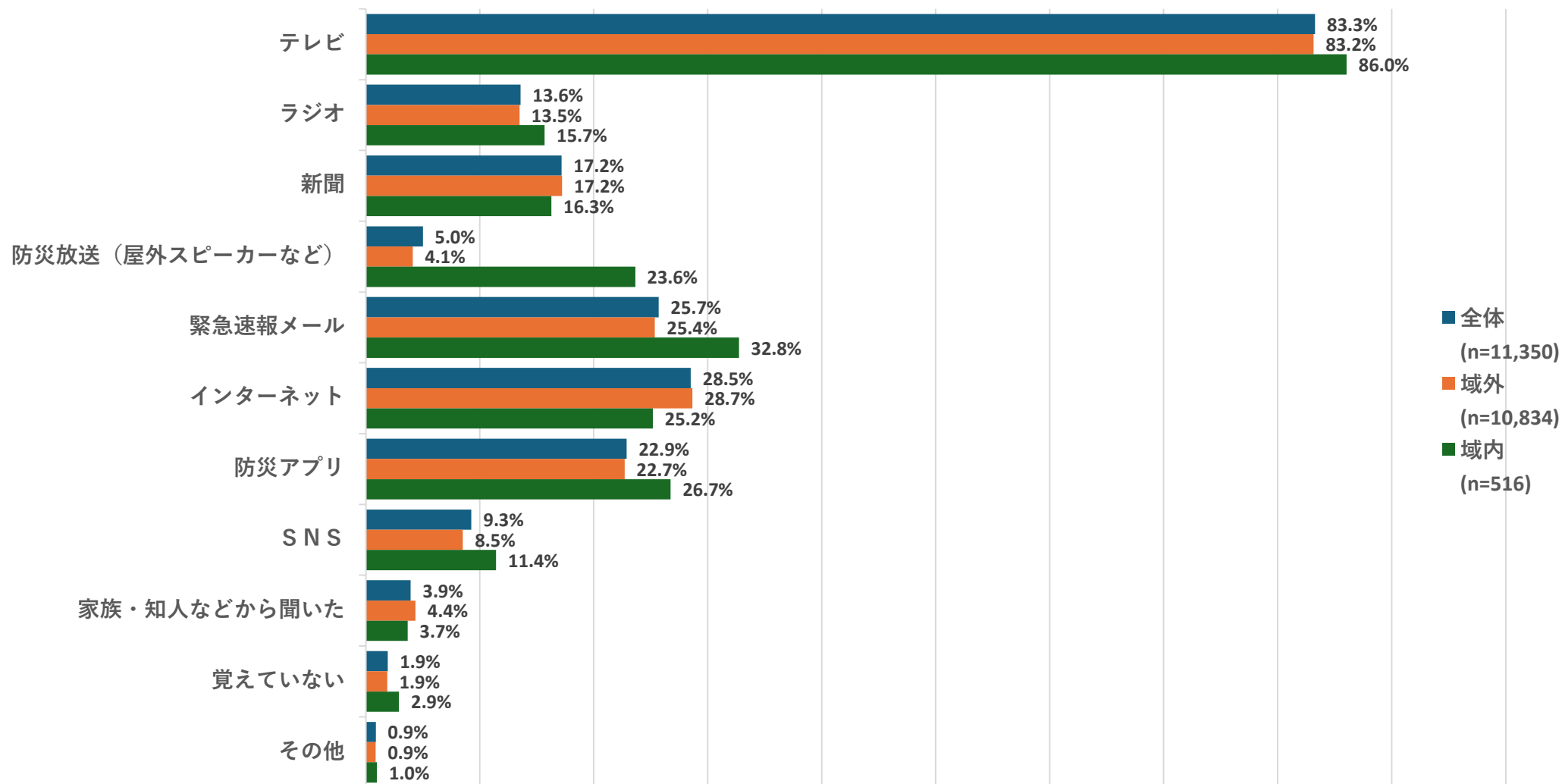
問2 いま、あなたは注意情報についてどの程度知っていますか。



資料編（第2回調査：津波浸水想定域内外の比較）

問3 注意情報の発表やその内容について、あなたはどのように知りましたか。(複数回答可)

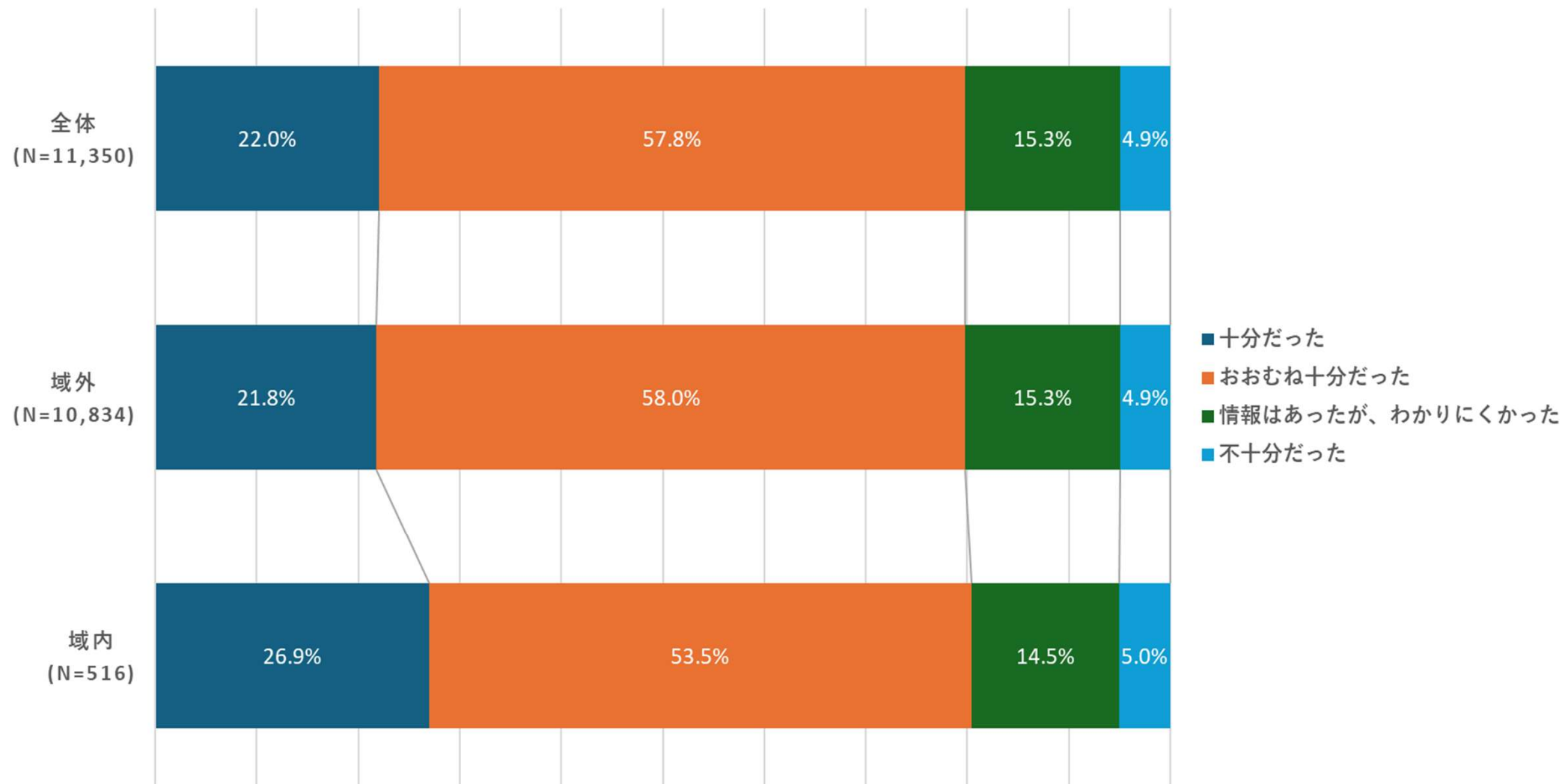
(複数回答)



資料編（第2回調査：津波浸水想定域内外の比較）

問4 今回の注意情報について、公的機関(国・県・市町村等)からの情報発信は十分だと感じましたか。

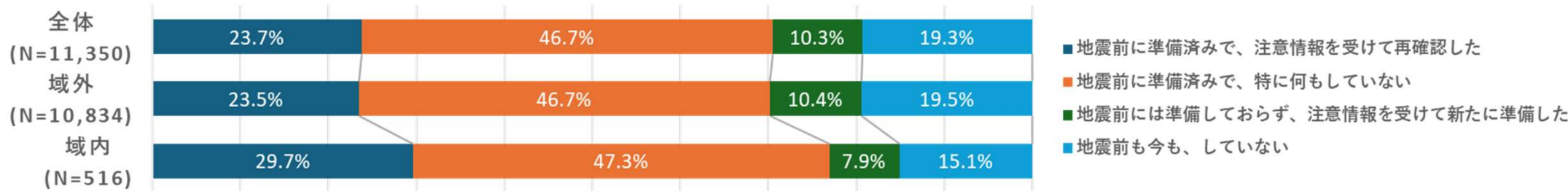
(単一回答)



資料編（第2回調査:津波浸水想定域内外の比較）

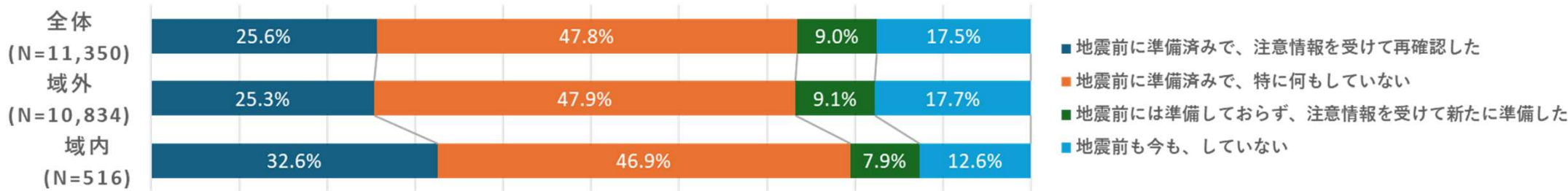
問5-1 ハザードマップで危険な場所を確認する。

（単一回答）



問5-2 安全な避難場所・避難経路等を確認する。

（単一回答）



問5-3 家族や知人等との連絡手段を決めておく。

（単一回答）



資料編（第2回調査：津波浸水想定域内外の比較）

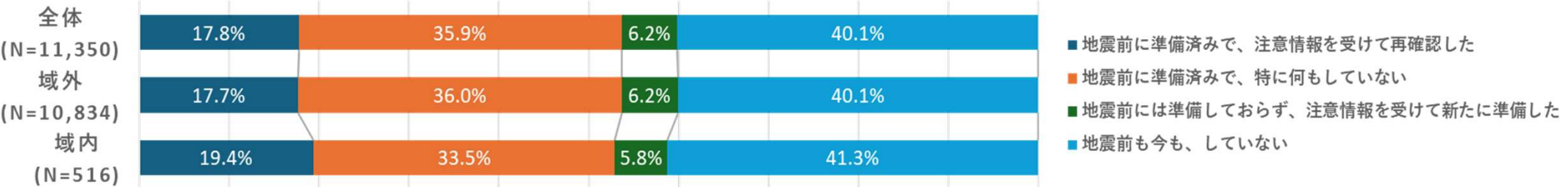
問5-4 非常持出品を準備しておく。

（単一回答）



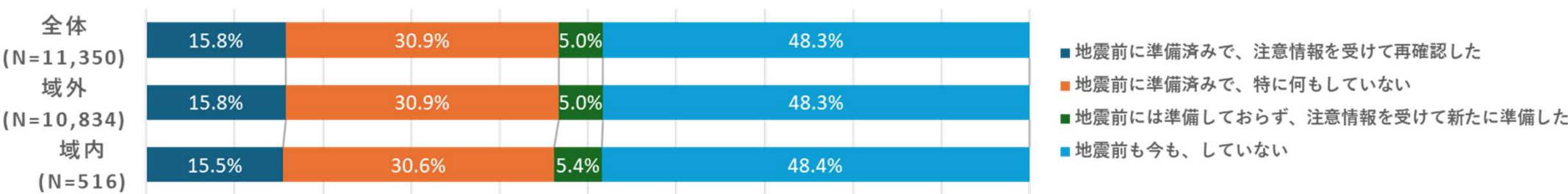
問5-5 火災報知器の電池切れがないことを確認する。

（単一回答）



問5-6 漏電遮断器や感震ブレーカー等を設置する。

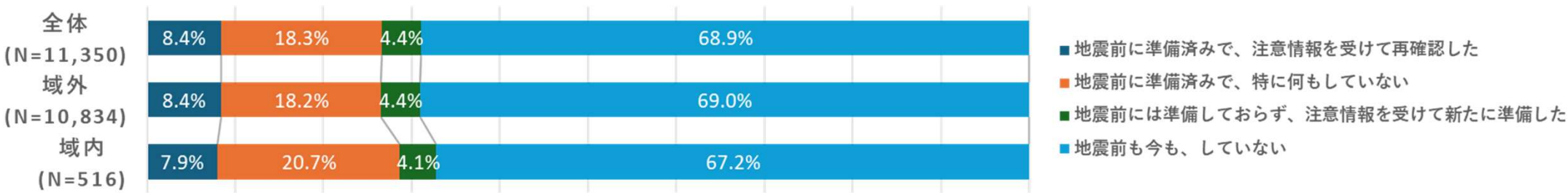
（単一回答）



資料編（第2回調査：津波浸水想定域内外の比較）

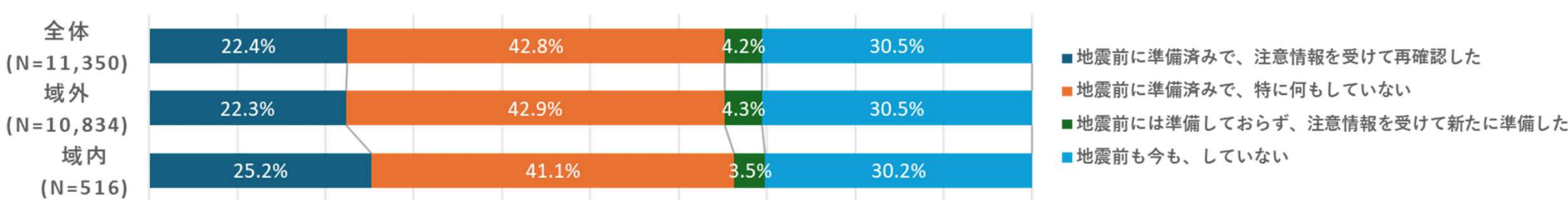
問5-7 窓ガラスの飛散防止対策をする。

（単一回答）



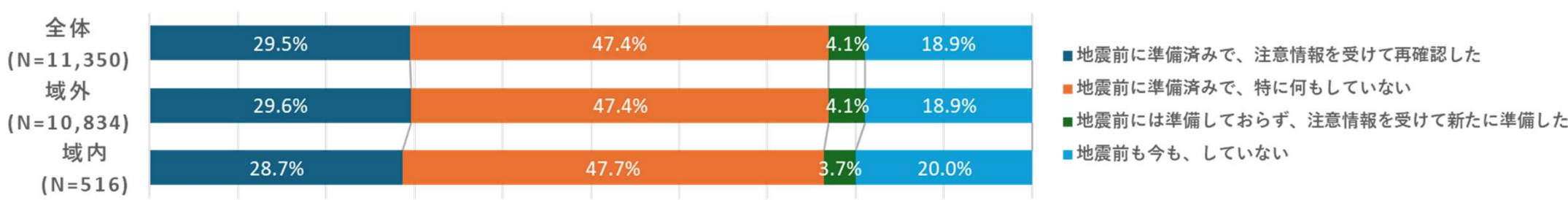
問5-8 タンス類・本棚の転倒防止対策をする。

（単一回答）



問5-9 ベッドや布団の頭上に物を置かない

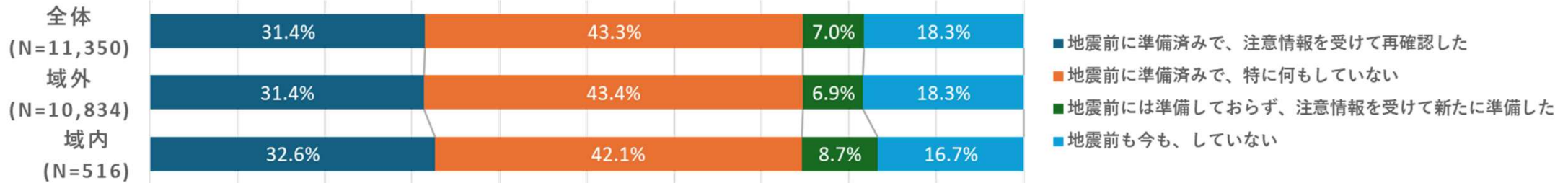
（単一回答）



資料編（第2回調査：津波浸水想定域内外の比較）

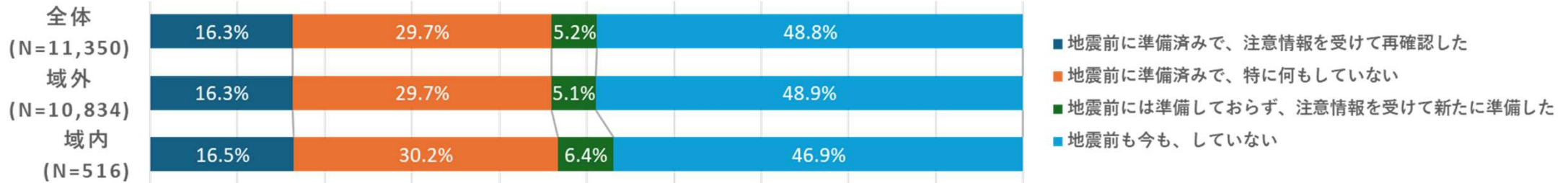
問5-10 水や食料などの備蓄を準備・追加する。

（単一回答）



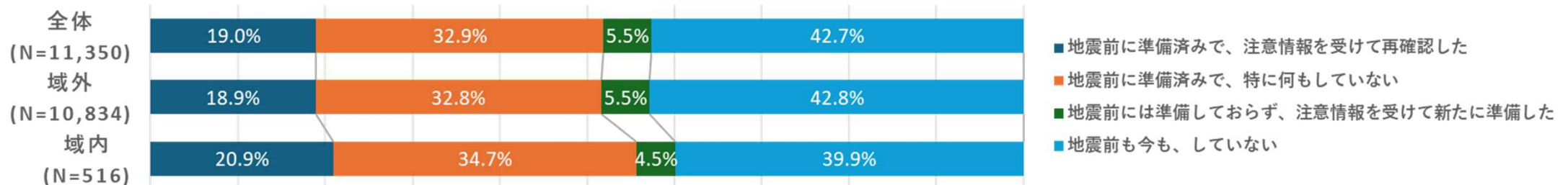
問5-11 簡易トイレを用意する。

（単一回答）



問5-12 予備バッテリー等を準備する。

（単一回答）



資料編（第2回調査：津波浸水想定域内外の比較）

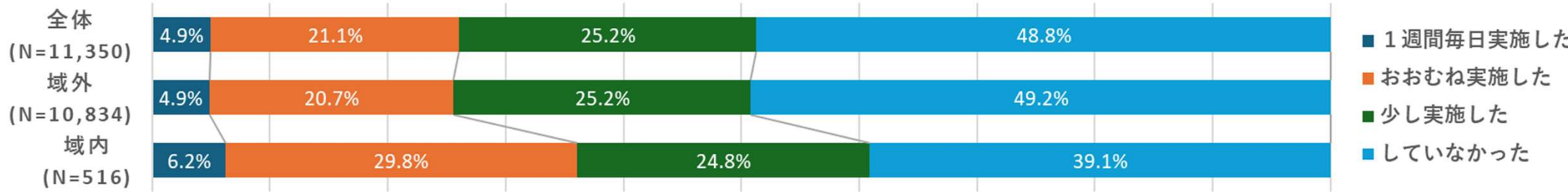
問6-1 すぐに避難できる態勢での就寝。

（単一回答）



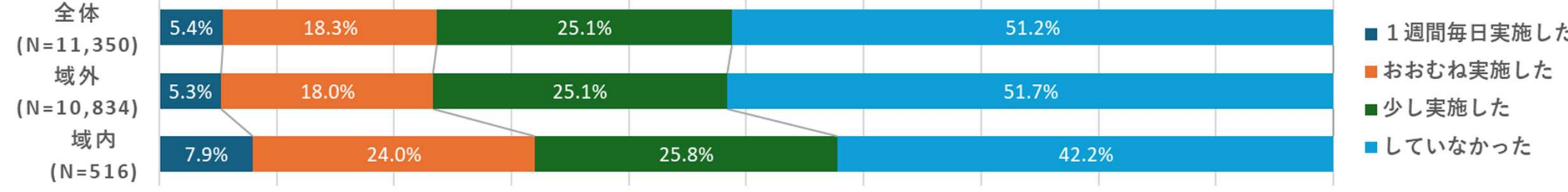
問6-2 外出先での、すぐに避難できる態勢の維持。

（単一回答）



問6-3 非常持出品の常時携帯。

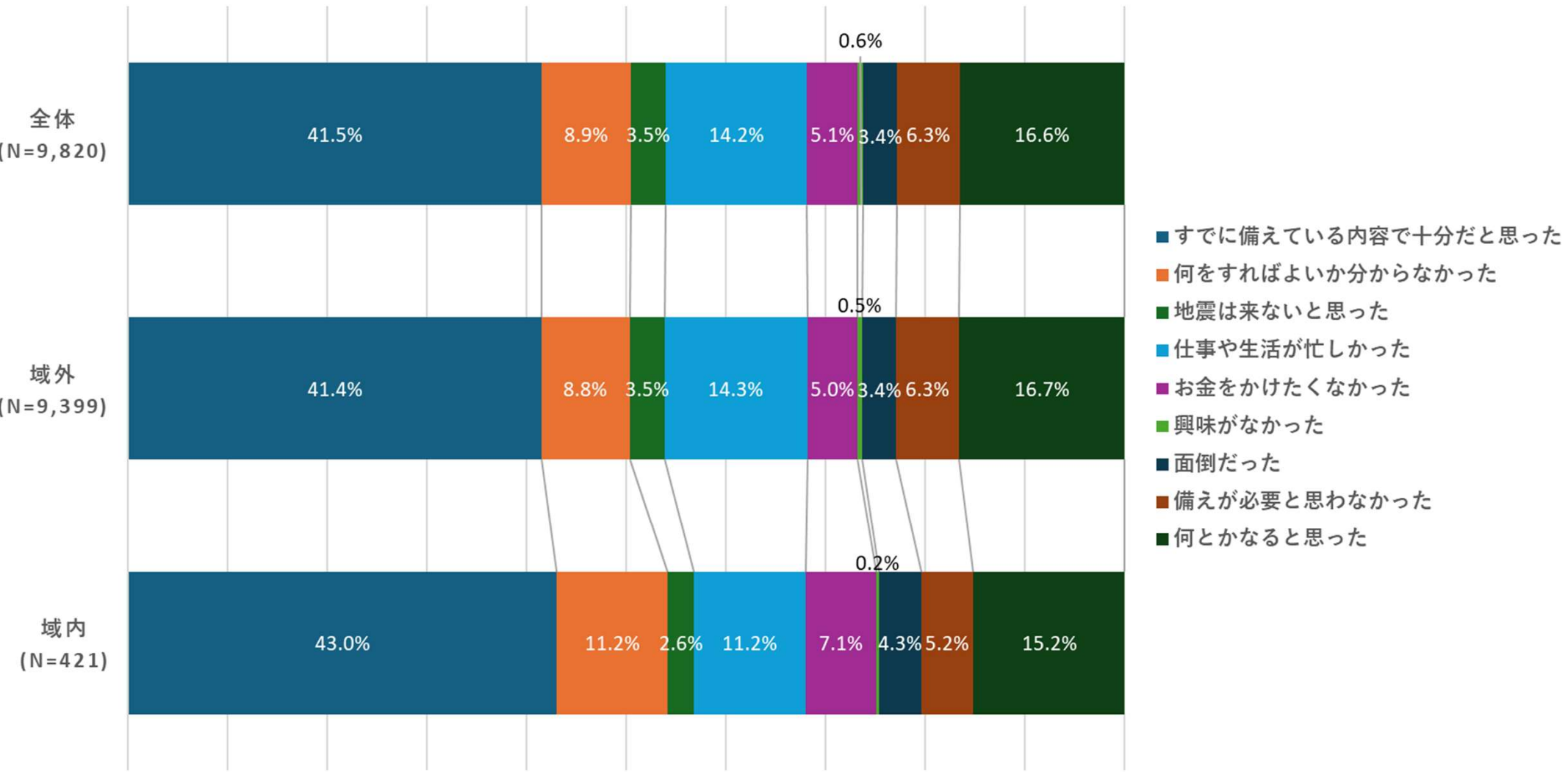
（単一回答）



資料編（第2回調査:津波浸水想定域内外の比較）

問7（問5・問6で「地震前も今も、していない」「していなかった」と一つでも回答された方にお聞きします。）あなたが防災行動を行わなかった理由を教えてください。

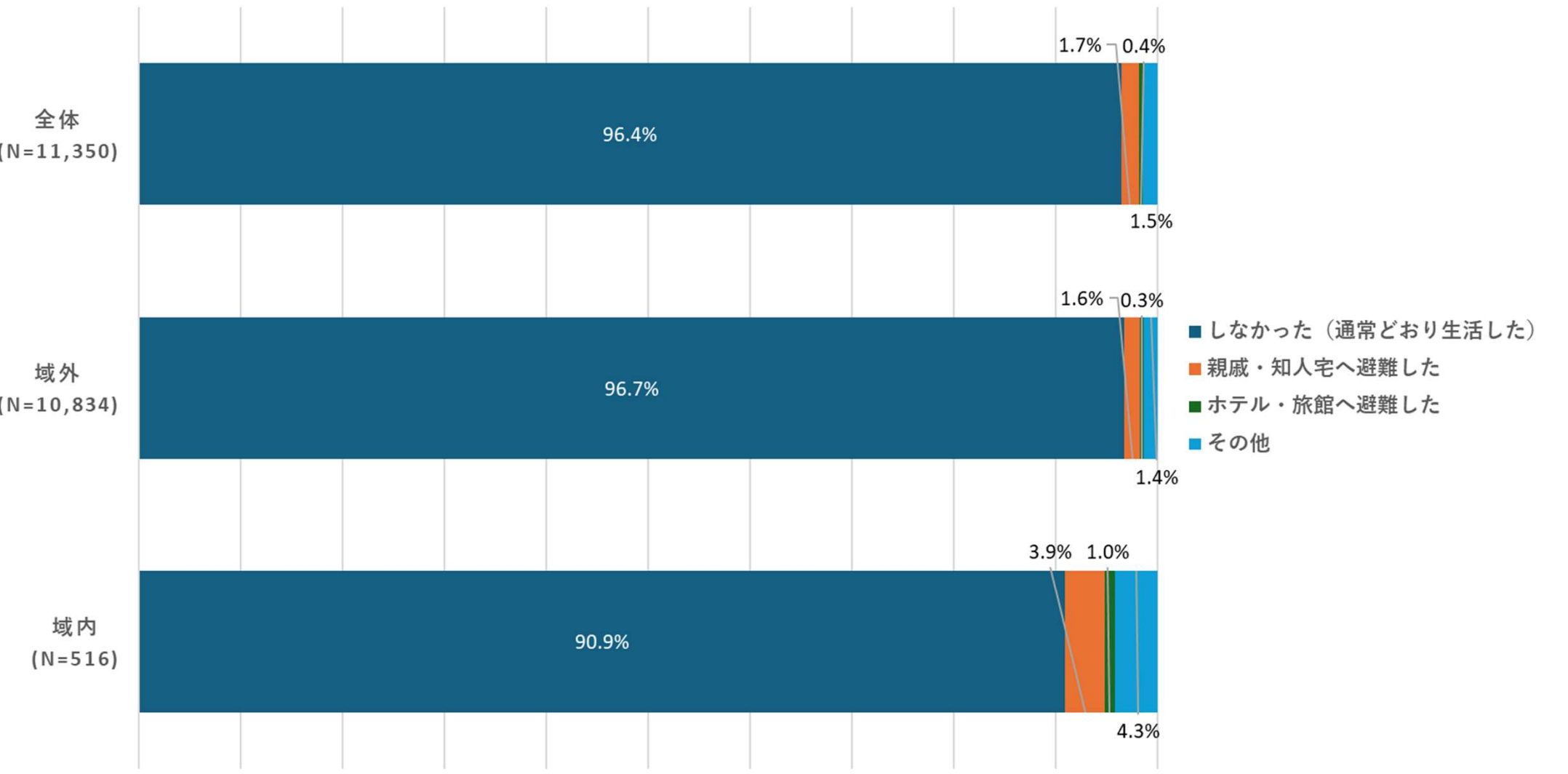
（単一回答）



資料編（第2回調査：津波浸水想定域内外の比較）

問8 注意情報は「事前避難」を求めるものではありませんが、注意情報の発表を受けて、あなたは自主避難を行いましたか。

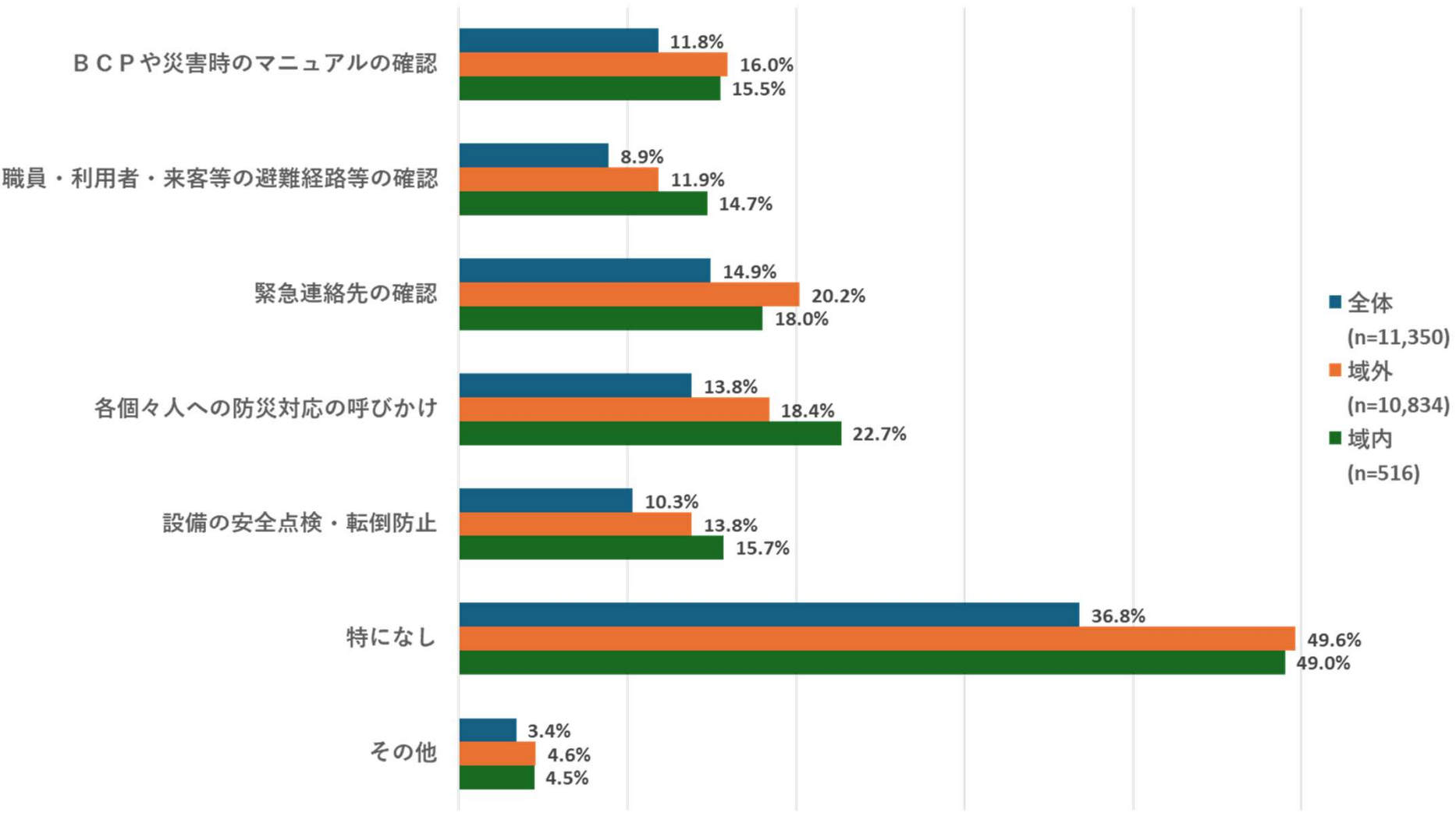
（単一回答）



資料編（第2回調査:津波浸水想定域内外の比較）

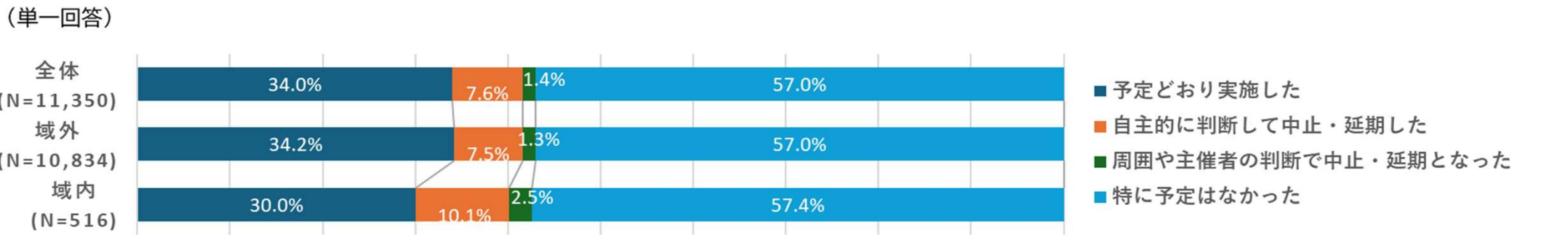
問9 注意情報の発表を受けて、あなたの職場や学校、施設等ではどのような防災対応が行われましたか。（複数回答可）

（複数回答）

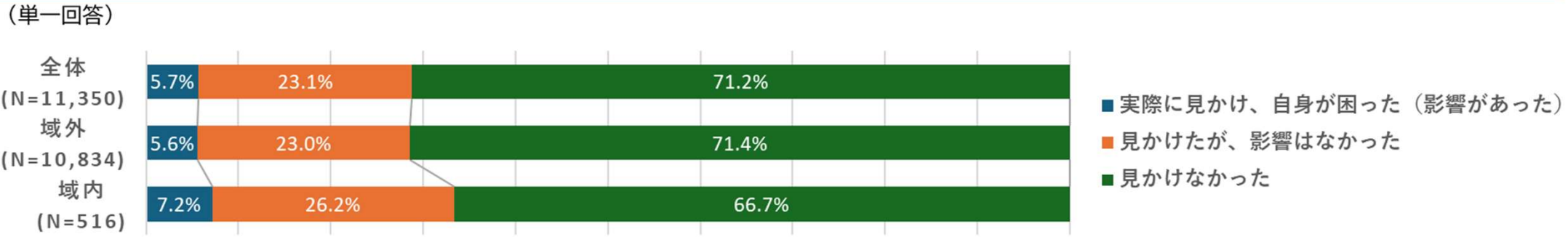


資料編（第2回調査:津波浸水想定域内外の比較）

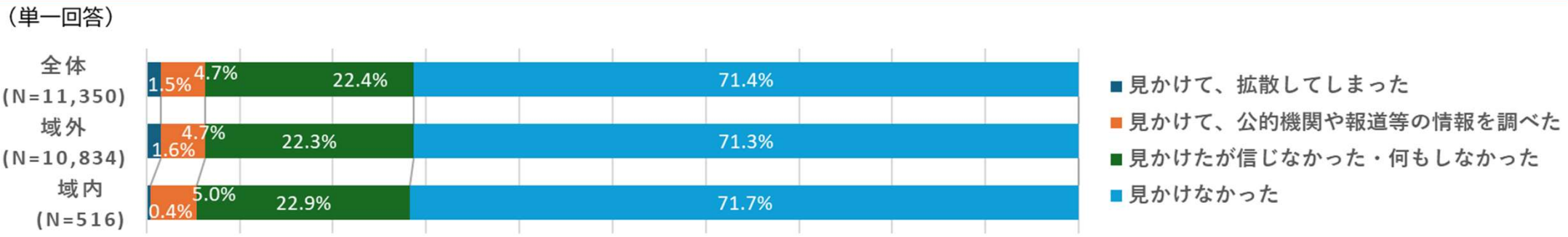
問10 注意情報では「普段どおり生活しながら注意すること」を呼びかけていますが、予定していた旅行やイベント、外出などはどうされましたか。



問11 注意情報の発表期間中、水、食料、生活用品、ガソリンなどの買い占めや品薄の状況を、ご自身の目で見ることありましたか。



問12 注意情報の発表期間中、SNS等で「人工地震」や「〇日に地震が来る」といった偽情報・誤情報を見かけましたか。



資料編（第2回調査：津波浸水想定域内外の比較）

問13 前回の注意情報発表時から今回の注意情報発表時までに防災への意識はどのように変化しましたか。



問14 前回(R7.12)の注意情報発表時と比較して、今回の注意情報はどのように感じましたか。



資料編（第2回調査:津波浸水想定域内外の比較）

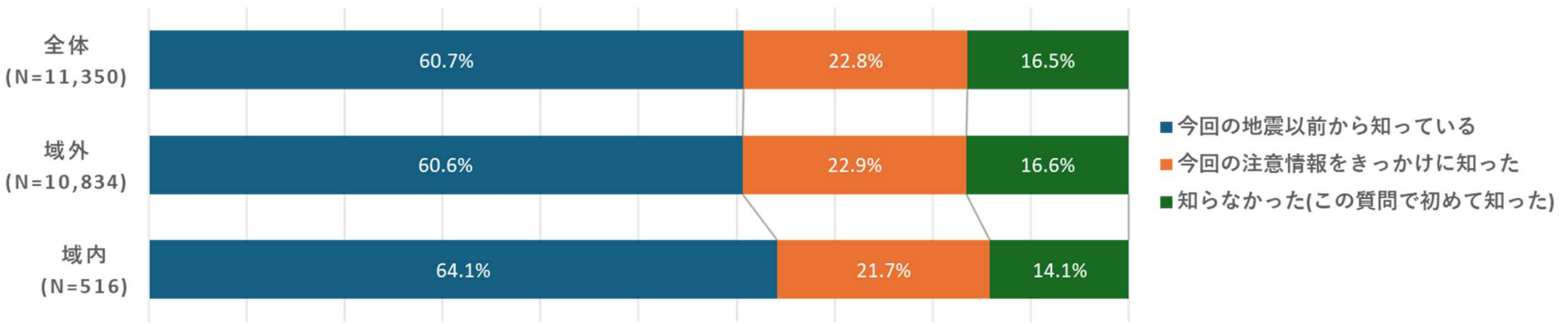
問15 東日本大震災の2日前(2011年3月9日)にはM7. 3の大きな地震があり、注意情報はこの事例も踏まえて運用が開始されました。あなたはこのことを知っていましたか。

(単一回答)



問16 日本海溝・千島海溝の周辺で大規模な地震・津波が発生する可能性があることを知っていましたか。

(単一回答)



資料編（第2回調査:津波浸水想定域内外の比較）

問17 大規模な地震・津波が発生した場合、あなたが避難時や避難生活で不安に思うことを教えてください。（複数選択可）

（複数回答）

